

実習・部活に学内PCR続々



- ⑥京都産業大が設置したPCR検査センターで、説明をする黒坂光(あきら)学長
- ⑦大阪電気通信大の学生らが開発した、マスク非着用警告システム=同大提供



新型コロナウイルス対策をしながら、どう学業を続けるか――。各地の大学が独自にPCRセンターを設けたり、検温やマスク着用を徹底したりして試行錯誤を続けていた。オンライン授業が広がる一方で、実習や部活動など、「リアル」な活動も必要だからだ。

授業時刻に合わせて学生がずらりと検温待ちの列をつくる。京都市郊外の京都産業大では、こんな光景が日常になった。多くの学生がバス通学する。今は検温しないと学内に入れない。京産大は0円、学内の参

東京大に1月、学内PCR検査センターを開設した。主な対象は、学生寮にいたり、研究分野について現地調査をしたりする無症状の学生らだ。民間の検査機関では、感染の有無を調べるPCR検査1回で3万円以上かかるところもあるが、大学では1回900円。結果は本人に通知され、陽性だった場合は大学が保健所に連絡する。検査を受けるかどうかは任意で、大学側は月1回の検査を推奨している。

学生寮で暮らす男子学生は、11月下旬に検査を受け

た。「以前から寮生活を心配する家族と自費での検査を受けるかどうか話し合っていたが、費用がネックだった。学内で安価で受けられた良かった」と話す。

寮は相部屋から1人部屋になり、イベントは中止された。談話室も使えなくなつた。この学生は「自然と友人が増える寮のメリットが消え、特有のざわざわした感じもなくなつて、さびしい」と漏らす。

阪南大（大阪府）も12月から、希望する学生が無料でPCR検査を受けられるようになつた。費用は1回1万円ほどかかるが、大学がすべて負担する。

大学には苦い教訓がある。阪南大によると、4～9月に学生39人の感染がわかつた。このうち、7月に感染がわかつた20人は同じクラブで、大阪府はクラスター（感染者集団）と判断した。京産大でも今春、懇親会などに参加した学生によるクラスターが発生した。

一クや実務を経験するための学外実習など「リアル」な活動を伴うものもある。阪南大の担当者は「集団で学生が来ると（感染リスクが）不安という声も、受け入れ先からあった。検査することで不安の解消に努めたい」と話す。

医療系の学部がある大学

A.Iでマスク

各大学はマスクの着用や手指の消毒の励行を呼びかける。学生のアイデアを対策に生かす例もある。

大阪電気通信大（大阪府）は6月、人工知能（AI）技術を使った「マスク非着用警告システム」をキャンパスの出入り口にとりつけた。大型のモニターが置かれ、マスクを着けていない人には「マスクを着用して下さい」と警告のメッセージが表示される。

者案したのは、情報工学科に入学したばかりの1年生や大学院生ら数人。今春、感染拡大で、大学は立

AIでマスク着用確認も

各大学はマスクの着用や手指の消毒の励行を呼びかける。学生のアイデアを対策に生かす例もある。

府)は6月、人工知能(AI)技術を使った「マスク非着用警告システム」をキヤンバスの出入り口に取り付けた。大型のモニターが置かれ、マスクを着けていない人には「マスクを着用して下さい」と警告のメッセージが表示される。

考案したのは、情報工学科に入学したばかりの1年生や大学院生ら数人。今春、感染拡大で、大学は立

多くの大学はオンライン授業を広げ、人との接触をできるだけ少なくしようとされているが、フィールドワークや実務を経験するための学外実習など「リアル」な活動を伴うものもある。阪南大の担当者は「集団で学生が来ると（感染リスクが）不安という声も、受け入れ先からあつた。検査することで不安の解消に努めたい」と話す。

医療系の学部がある大学

も、独自のPCRセンターを相次いで設置している。これまで昭和大（東京都）などが立ち上げた。武庫川女子大（兵庫県）も11月、薬学科の中に設置した。医療機関など学外での実習が必要な学生も多い。受け入れ先から「感染していないことを示す「陰性証明書」を求めることが多かった。大学側は学生の負担を減らし、学内外の安心感につなげようと設置を決めたという。